

平成27年度第2回佐倉市青少年問題協議会議事概要

会議名	平成27年度第2回佐倉市青少年問題協議会議事概要
開催日時	平成28年3月17日（木）10時00分～12時00分
開催場所	佐倉市立中央公民館 学習室3
出席者	諸根彦之委員：佐倉市教育委員会指導課長 前田克彦委員：佐倉市立王子台小学校長 菅田平昭委員：佐倉市青少年育成市民会議会長 高石惣一郎委員：佐倉市体育協会副会長 遠藤知子委員：佐倉市スポーツ推進委員副会長 新田 司委員：千葉敬愛短期大学准教授 梅田美知子委員：佐倉市人権擁護委員 宮崎隆夫氏：佐倉警察署生活安全課少年係長（小菅広計委員代理） 渡邊久子氏：社会教育委員（木原義春委員代理） 佐藤富秋氏：少年警察ボランティア少年指導委員（片岡正臣委員代理） 事務局 櫻井児童青少年課長、児童青少年課 飯野主幹、牛玖副主幹、能崎主査補、武藤主事
傍聴者	なし
議事	☐開 会（全体会） 1 開 会 2 主催者挨拶 3 進め方の説明 ☐ワーク班別活動「青少年を巡る課題と課題解決を探る」 発表者選出、課題抽出、抽出した課題の討議順位づけ、課題の解決方法の検討、課題解決手法の分類、各班まとめ ☐閉 会（全体会） ・グループ発表 ・まとめ
要旨	参加者を2つのグループに分けワークを行い、前半ではそれぞれの立場から青少年育成を巡る課題を抽出し、それを受け後半では、出された課題を解決するための方策を探りました。 両グループからは、青少年自身の問題について、大きな課題は挙げられず、都会的な面や自然が残るなど良い環境の中で、子どもたちは自発的に挨拶を行い、目立った非行もなく、学習レベルも低くなく、青少年育成については、概ね落ち着いた生活を送っていると思われるとのことで、良い面と捉えるか、気になる面と捉えるかにもよりますが、傾向として、特に若者が素直でおとなしくなっていることが指摘されました。具体的には、興味関心が広がらない、元気よく挨拶ができないなどが挙げられました。 両グループとも、青少年を取り巻く環境について意見が出され、気になることとして、家庭が子育てする力や家庭教育について、ひとり親世帯や外国人世帯など課題を抱える世帯の対応について、スマホ等での情報モラルとコミュニケーション力について、地域のつながりが弱くなっていること（⇔親の孤立化）、家庭の2極化、親や地域が子どもたちへ

の関心が薄く、地域の大人の子どもに対する判断力の低下などが課題として指摘されました。

これらに対して、本来的に子どもの世界は変わっていないが、子どもの世界を変えてしまっているのが大人や社会であることが挙げられ、「子どもたちのために」、何ができるか話し合われました。学校や地域や関係機関のつながりの中で、子育て世帯が孤立することがないように、制度や仕組み、情報や支援が必要としている人に届くことが大切で、課題や困難を抱える世帯を、子どもたちが安心して生活している姿をとおして、安心した子育てができるよう地域や学校や関係機関が連携していくことが重要との話し合いが行われました。